



しゃく熱の溶けた金属を操る

11月18日(月)と12月12日(木)に機械科の3年生が鑄造実習を行いました。後輩が実習で製作する万力の材料、卒業記念の文鎮(ぶんちん)、鉄アレーなどの型に1400℃にもなる溶けた鉄を流し込みました。

現場は、高温の熱源で地金を炉(キュポラ)に投入し溶かしました。少しの気のゆるみで大やけど、段取りのミスで火災と不安を抱えながら、クラス一丸となって無事に溶解・鑄込みを成功させました。

外部講師に、ものづくりマイスターの淵上さん、前田さんにもご指導いただき、緊張の中にも落ち着いた連携作業ができたようです。



溶鉱炉(キュポラ)



出銑(とがった棒で湯口を開け、大取鍋に取り出す。)



温度測定(約1400℃)の様子



小取鍋（杓：しゃく）に分配



鑄込み作業



マイスターによる鑄込み作業の指導



鑄込み終了「炉底を開き残ったコークスやくず鉄を出し、水で冷やす。」